

5 月度ヒヤリハット報告会

令和 4 年 7 月 1 日
富岡東
長谷川

開催場所：当事業所内
参加スタッフ：各スタッフ

利用者 S 様の事例について

事例 9 状況・経緯	入浴後、バイタルチェックができていない事に気づく。 入浴中は問題なかった。
発生した要因	他のスタッフがやってくれるだろうという思い込み。
再発防止策	浴室ドアにバイタルチェックシールを貼り、スタッフに再確認。

特徴

- ・週 3 デイ利用
- ・杖持参するが殆ど使用していない
- ・独居
- ・ADL 自立
- ・右足が上がりにくい

利用者 K 様の事例について

事例 1 3 状況・経緯	食後薬を他の利用者様と取り違えてしまった。
発生した要因	他スタッフが対応中で、他に気を取られ本人と確認を行うとした。
再発防止策	ながらで行わず、自身でもチェックを行い他スタッフとのダブルチェックを行う。

特徴

- ・週 3 泊まり利用（デイ 1 ・訪問 3 対応）
- ・独居
- ・自立しているが、歩行のフラつき軽度
- ・時折
- ・ADL 自立

利用者 K 様の事例について

事例 1 7 状況・経緯	昼食後薬の服薬時に 1 錠落としてしまったが、すぐ服薬して頂いた。
-----------------	-----------------------------------

上記 K 様と同じ

発生した要因

事例 9

- ✓泊まり・デイ来所時間が早い利用者様は特に、フロア待機スタッフ及び Ns をあてにしている傾向にあり、計測済と思ってしまったのではないかと（田中・飯塚・菊地）
- ✓入浴中に体調が悪くなることはないだろうという思い込みから、バイタル確認が疎かになってしまったのではないかと（中山）
- ✓介助の統一化ができていない（杉本）
- ✓基本的に変化が少なく、自立度の高い人故に「大丈夫でしょ」という安易な解釈になってしまった為（島崎）
- ✓入浴前にバイタルと体調の確認といった基本が頭から抜けている（別府・平間）
- ✓入浴に対しての問題発生に繋がることへの意識がなかった（生方）
- ✓Ns 不在の日が多く、今までの流れで Ns が計測しているものと思い込んでいた（古田）
- ✓スタッフ間の共有事項が出来ておらず、介助者本人の意識の問題（長谷川）

事例 1 3

- ✓他の事に気を取られる・急いで業務を行う等注意しながらチェックしていなかったのではないかと（田中）
- ✓薬袋の名前と利用者様の確認を怠ってしまった為ではないかと（中山・平間）
- ✓介助の統一化ができていない（杉本）
- ✓自分自身が確認を怠った事に加え、ダブルチェックの実施も怠っていた（飯塚・生方）
- ✓基本のルールからの逸脱による結果（島崎）
- ✓ダブルチェックという基本が出来ていない（別府・菊地）
- ✓利用者様と確認も大事だが、スタッフ同士で確認できていなかった（別府）
- ✓取り違え自体は致命的な問題ではないが、「誰に服薬させるか」を自身で確認及び把握してから業務にあたれてない（長谷川）

事例 1 7

- ✓薬の形状が丸いものが多く、転がりやすい為（田中）
- ✓薬を渡す時に落下に注意する声掛けがなかった為ではないかと（中山）
- ✓落薬自体は大きな問題ではないと考える（杉本）
- ✓今までは落とすなく服薬できていた「慣れ」のような感覚があり錠剤数が増えて、うまく手に乗らなくなってきたのではないかと（飯塚）
- ✓少量で渡さず声掛けが足りなかった（生方）
- ✓自立している利用者様でも、最後まで見守りができていなかった（菊地）
- ✓13 と同様で落薬しすぐ気づく事が出来た為、致命的な問題ではないものの本人に渡す際の事前確認等が不足していたものではないかと（長谷川）
- ✓手のひらへの置き方が悪かったのではないかと（平間）

再発防止策

事例 9

- ✓入浴前にバイタルチェック表の確認・入浴前に利用者様本人に体調・バイタル測定の確認をとり二重チェックを行う（田中）
- ✓入浴介助前に、フロアスタッフへ「〇〇さん入浴します」と伝えるようにしており、気づいた際に「バイタル確認しました」と付け加えるようにしている（中山）
- ✓事例 13 と同様に支援手順の統一化及び入浴日の利用者様に関しては「誰がどのタイミングで行うか」のマニュアル化が必要（杉本）
- バイタルチェック表の確認・浴室ドアに確認シールを貼付（飯塚）
- ✓入浴室前にテプラでの貼付し注意喚起（別府・島崎）
- ✓バイタルチェックの大切さを意識し確認。Ns を中心に誰が行ったかを知りコンタクトをとる（生方）
- ✓自身でバイタル確認を取り、依存性をなくす（古田）
- ✓自身の判断で入浴をさせず、確認を取る。
- ✓フロアスタッフへ一言添えてから入浴介助を行うと共に、フロアスタッフ側からバイタルチェックの確認を促すような働きかけ（長谷川）
- ✓バイタル表に入浴介助者が記入する（平間）

事例 13

- ✓自分自身だけでなく、他のスタッフへ見えるように薬袋を確実にチェックを行う（田中）
- ✓利用者様への使用 NG のトレーを服薬専用にして、注意喚起用にテプラを貼り付け（中山）
- ✓自身で確認したのち他スタッフとダブルチェックを行い、利用者様の前でも確認を行い、声に出して確認。
- ✓基本ルールを顧みる事（島崎）
- ✓スタッフ間で服薬ダブルチェックを行う基本を再度周知（別府・古田・菊地）
- 服薬を行うことを他スタッフに伝え、手に取る前にチェックを（声に出す等）行ってからその業務に集中する（生方・長谷川）
- ✓頻発するようであれば、服薬置き場周辺に注意喚起を促すテプラを貼付（長谷川）

事例 17

- ✓落としてしまう恐れのある方は、スプーンを用いて服薬してもらう（田中）
- ✓手のひらの状態を確認し、渡す時に落下防止の声掛けをすることで利用者様自身にも注意を促す（中山・菊地）
- ✓落薬はご本人様のご自身で口腔内に入れる場合はあり得る事で、必ず介助者が目を離さず服薬後の口腔内確認を行う（杉本）
- ✓薬の数が増えたので、2 回くらいに分けて飲んで頂く。もしくはスプーンを使用等を使用し服薬を検討（飯塚・平間）
- ✓服薬手順書にそって行う、それでも頻発する場合は服薬方法の見直しを検討（別府・長谷川）
- ✓自力で出来る方でも何らかの器に入れ少量ずつ服用して頂くような声掛け（生方・古田）

その他業務に関して悩んでいる事や意見等

- ✓I様に関する同じようなヒヤリハットが毎月報告されており、他の利用者様に関してもスタッフ間の声掛けが少なく、フロアに誰もいない事がよく見られる（田中）
 - ✓自分が入浴介助の時、他のスタッフが洗濯物を干してくださることが多く大変助かっています（中山）
 - ✓W様が水分摂取がすすまない事、最近ではコーヒーもあまり飲んで下さらない事もある（飯塚）
 - ✓利用者様の入浴人数が曜日によって偏りがあり、どうにかならないか（古田）
 - ✓水分摂取がすすまない利用者様への声掛けや対応を知りたい（菊地）
- ✓掃除・支援・排泄等の業務について、個々のやり方に任せているのが多いと感じた。全員が同じやり方をする事で、結果的に問題を少なくする最善と考えます（杉本）

総括

- ✓水分摂取がすすまない利用者様に対しては好きな飲物を提供し経過観察。
- ✓介助の統一化について現状では統一化の必要性はないが、もし問題が起きた場合はそこに焦点を当ててルール化していけば良い。
- ✓服薬について、衛生面の観点から床や机に落薬した時点で重大案件であり、ADL問わず特定カップに錠剤を入れて本人に口へ運んで頂くような方法を試してみてもどうか。
- ✓服薬手順書に基づいた介助に問題があれば、都度手順書の改訂をするため積極的な気づきが必要になってくる。
- ✓バイタルチェックの大切さや、個々人の危機管理に大きな差異がある。

早くも服薬についてのヒヤリ報告があったが、手順書の作成と1ヶ月程のタイムラグがあるため来月以降より数値となって結果が出る予定である。

今回のヒヤリ議題においては、今後事故報につながるリスクが極めて高いものに絞った。その結果として、介助に於いての基本ルールを再度顧みる必要が出てきた。

バイタルチェックについては、個々人の意識や危機管理の問題であり、注意喚起のテプラが効果の有無も判別が困難。浴室前扉にバイタルチェック表の設置をし、入浴担当者が記入してから介助を行うようアシストする運びとなった。

また、服薬については衛生面等の観点から、自身での服薬が困難な方を除き特定カップを使用しての服薬を報告回以降試験的に行っている。スタッフも利用者様も安心できるような働きかけを今後も考えていきたい。